

# 特性

- 1 慢性便秘症\*の効能・効果を取得した本邦初のラクツロース製剤です。慢性便秘症診療ガイドライン2017においてラクツロースを含む浸透圧性下剤は推奨度1、エビデンスレベルAに位置付けられています。(8、56～57頁)
- 2 体内に吸収されず、浸透圧作用により腸内への水の移動を促進するとともに、腸内細菌によって有機酸を産生し、腸管の運動を促進します。(45頁)
- 3 本剤24g(本剤2包)を1日2回経口投与し、症状に応じて用量調節することで、いきみ、硬便、残便感などの便秘症状を改善し、自発排便を促進しました。(18～24頁)
- 4 血液透析患者の慢性便秘症\*の重症度を改善しました。(30～31頁)
- 5 国内で実施した日本人慢性便秘症\*患者を対象とした臨床試験で、270例中、31例(11.5%)に臨床検査値異常を含む副作用が認められました。主な副作用は下痢9例(3.3%)、腹部膨満6例(2.2%)、腹痛6例(2.2%)でした。  
また、国内で実施した高アンモニア血症患者を対象とした臨床試験で、43例中、2例(4.7%)に副作用が認められ、いずれも下痢でした。  
[承認時]

\*器質的疾患による便秘を除く

承認された用法・用量は下記の通りです。

#### ■用法・用量

- 慢性便秘症(器質的疾患による便秘を除く)  
通常、成人には本剤24g(本剤2包)を1日2回経口投与する。症状により適宜増減するが、1日最高用量は72g(本剤6包)までとする。
- 高アンモニア血症に伴う症候の改善  
通常、成人には本剤12～24g(本剤1～2包)を1日3回(1日量として本剤3～6包)経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。
- 産婦人科術後の排ガス・排便の促進  
通常、成人には本剤12～36g(本剤1～3包)を1日2回(1日量として本剤3～6包)経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。